



## 理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

## 基本方針

- ・ 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- ・ 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- ・ 二次医療を中心に担当します。
- ・ 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- ・ 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

## 働きながらかん治療を続けるために 整理しておきたいこと

地域医療総合支援センター 入退院支援室  
緩和ケア認定看護師 衣笠 久美子

2006年に日本全国どこにいても良質な医療を受けられる環境の整備を目的として、国はがん対策基本法を制定しました。制定から13年が経過し、2006～2008年全がんの5年相対生存率は男女合わせて62.1%へ伸び、10年生存率についても調査されるようになりました。また、国立がん研究センターがん対策情報センターは、がん罹患した3人に1人は就労可能年齢であると発表しています。つまり、がんは医療の進歩とともに、「助からない病気」から「慢性疾患≒治療しながら付き合っていく病気」へ、社会生活を送りながら治療を受ける時代へと変化してきたということです。

しかし、働きながら治療を続けるには、「治療の副作用があるのに働けるの?」「病気を上司にどう伝えたらいいの?」「受診や治療で仕事を休まなきゃいけないけど、いつまで?」などさまざまな不安があるのも事実です。これらを考える材料として整理しておくといふ内容を右にまとめています。

ですが、考える材料はあっても、不安な気持ちの中、一人で考えるのは大変な作業です。診断された時から相談窓口を知っておく、または確保しておくこと安心です。鳥取市立病院内には、医師をはじめ、がん支援相談員、緩和ケア認定看護師、公認心理師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師など、仕事を続けるために力を貸してくれる頼もしい味方がいます。ご相談は当院エントランスフロアにある地域医療総合支援センターの受付をお尋ねください。

### 医師に確認すること

- 治療スケジュールと費用
- 治療中に今の仕事が続けられるか
- 仕事の制限は必要か
- 治療の副作用や後遺症はどのようなものか
- 副作用や後遺症の対処法
- 他の治療選択肢はあるか

### 自身が考えるときのポイント

- 治療が仕事のスケジュールに影響するか
- 仕事が、あなたにとって経済的・精神的にどれくらい大切か
- 職場の利用できる制度は何か
- 年次有給休暇、私傷病休暇制度、短時間勤務制度、フレックスタイム制度、傷病手当金制度など
- 公的助成制度は利用できるか
- 高額療養費制度、医療費控除、障害年金など

# 初期臨床研修医 座談会

## 2年間を振り返って



——本日は大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。早速なのですが、この2年間を振り返ってみて、どのようなことが思い出されますか。

**宮本** 例えば、最高に自分が輝いた瞬間とか、これは失敗したとか、勉強になったとか……。

**中村** 研修が始まったころは、できなかったことが、少しずつできるようになってきたなど実感します。例えば、腹部のCT画像とかみても最初は何が何だかさっぱり分からなかったけど、少なくとも2年前に比べると分かるようになってきたのかなとは思っています。

**宮本** 画像もそうだけど、採血オーダーするにしてもどんな項目でオーダーすればいいか分からなかった。研修医なりたての頃に診た患者さんをまた診る機会があって、その人の記録をさかのぼると、昔の自分が書いた記録が出てきて。

**松本** あるね(笑)。

**宮本** 今の自分だったら採血でこの検査項目オーダーするよなって思ったら、次の日に指導医が検査オーダーしてた。

一同 (笑)。

**宮本** やっぱり成長してるなって思いますね。

**中村** 河原先生はどう？

**河原** 私は診療とは関係ないんだけど、医局で喋れたことが割と楽しかった。ラウンジみたいな感じだから、他の先生方と距離が近くて全然診療に関係ない事でも雑談できたりとか。

**中村** 一般的な研修病院だと研修医だけがいる部屋があるけど、うちの病院の場合はそれが無いから、上級医の先生がふと話しかけてくださったりとか、逆にお昼ご飯食べてる先生にちょっと質問したりとか、話す機会

がたくさんあるのはうちの病院の特徴だと思いますね。

**河原** 私の性格上、埋もれやすい方なんですけど、わりとみなさんが話しかけてくださって。こういう形式だからこそ向こうからも、こちらからも話しかけやすい環境なんだと思います。研修医だけの部屋があったらそこにこもりきってしまいそう(笑)。

——では、研修期間中に大変だったことはありますか？

**河原** 研修医でたまに問題になるのがドロップアウトなんですけど、幸い自分は2年間元気に楽しく研修できました。日々大変なことはあったかもしれないけど、割とその辺は気にかけてくださいました。あと、私は冬場に良く体調を崩すことがあって。

**宮本** 毎年この季節に体調崩してるね。

**河原** (笑)。体力面とかみなさんが配慮してくださいましたね。

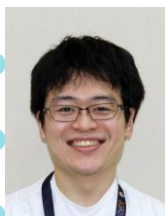
**松本** 僕は、最初の頃は何もわからない時にいきなり患者さんへの説明を任されたことがあって、まだそこまで勉強してなかったけど必死に対応しなきゃいけなかったこととかありましたね。でも、そこは自分で勉強しないと!と拍車をかけられたので良かったかなと思います。

**宮本** 何事も最初は大変ですよ。俺、初めて患者さんに針を刺すときに、もう震えて震えて。学生時代にやる時は、完全に守られた立場だったけど、研修医になってお金をもらって仕事として人に刺す初めての瞬間はめっちゃくちゃ緊張しましたね。

——生身の皮膚にキズをつけるのは怖いですね……。

**宮本** やっぱ怖いですよ!初めての救急外来の時に、「点滴ルートとってみろ」って上級医から言われて。すごい汗かきながら、手もブルブル震える状況で針がうまく入るわけもなく。でも、今では結構上達しました。別の研

### 参加者



**宮本 翔太郎**

鳥取県出身。岡山大学医学部医学科卒業。専攻医研修は耳鼻咽喉科。明るい性格で面倒見が良く、4人の中でリーダー的存在。



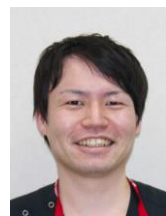
**中村 悠大**

鳥取県出身。岡山大学医学部医学科卒業。専攻医研修は循環器内科。知識が豊富で、他の3人曰く、「何を聞いても答えが返ってくる」。



**河原 史歩**

岡山県出身。鳥取大学医学部医学科卒業。専攻医研修は消化器内科。紅一点。がんばりやで、自分の将来像と強い志を持つ。



**松本 真実**

兵庫県出身。山梨大学医学部医学科卒業。専攻医研修は外科。行動派で、救急や手術に積極的に参加している。

修病院へ研修に行った時にCICUでベテラン看護師の方たちが針が入らなくて、その時に「少しやらせてください」って言ってやらせてもらったら、バシッと一回で決まった。それまで、ベテランの看護師さんからは研修医なので頼りにされてなかったんだけど、次の日から「先生」って呼ばれて…。

一同（笑）。

**宮本** やっぱり知識だけじゃなくて、目に見える手技って磨かないといけないよね。あと話術も磨かないといけない。せっかく鑑別診断を持ってても話すのが下手だったら、相手に伝わらないもん。

**中村** コミュニケーション力大事だね。

**宮本** コミュニケーションって言えば、初めて針を刺す時も緊張したけど、病棟の研修が始まって、初めて看護師さんとコミュニケーションを取らないといけなくなるじゃない？上級医から「じゃあこれ病棟に言っといて」って言われるのが最初すごくしんどかった。

**松本** コミュニケーション力が高い宮本先生が？

**宮本** しんどいよ！相手にされるんだろうかみたいな不安から始まって。でも、いろんな先生が言われるとおりに看護師さんがとても優しく、そういう意味じゃうちの病院よかったよね。学生から医者へのステップアップにはいい病院かもしれません。この部分掲載して下さい(笑)。

**河原** メディカルスタッフと技師さんも優しいから(笑)。

## 最後に一言

——最後に皆さんから一言いただければと思います。

**宮本** 鳥取市民の皆さまや、病院スタッフの皆さまに支えられ、初期臨床研修を終えることができました。春からは岡山大学病院に勤務し、数年後に耳鼻咽喉科専門医として市立病院へ戻って参る所存です。温かく迎えていただけると幸いです。2年間ありがとうございました。

**中村** 来年からは当院で循環器内科の道へ進みます。高血圧や動悸など多くの方が抱えている症状から、心筋梗塞、不整脈、心不全などの命に関わる重症な病気まで扱う診療科です。少しでも早く地域の皆さまのお役に立てるように、これまで以上に精進していきます。

**河原** ご指導いただいた先生やスタッフの皆さま、担当させていただいた患者さんには本当に感謝しています。来年度からは鳥大で消化器内科の道に進みますが、ここでの経験を活かして頑張っていきたいと思います。

**松本** 研修を始めた頃は知らないことが多くとても不安でしたが、指導医の先生、同期の先生、医療スタッフなどの病院関係者に支えられながら研修を無事に終えることができました。多くの人に支えてもらった以上に多くの人を支えることができる存在になりたいと思います。

——皆さま、本日はありがとうございました。

本紙にはスペースの関係上、割愛して掲載しています。

全文はホームページに公開いたしますので、是非ご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う

## 面会禁止について

昨今、新型コロナウイルス感染症が拡大傾向にあります。

そこで、2020年**3月2日**(月)より、感染防止対策のため、**当面の間、入院患者さんへの面会は禁止とさせていただきます。**

※ ただし、病院側で必要と判断した場合(手術当日、面談など)は除きます。

ご理解ご協力をお願い致します。

## 手話を使ってみよう!

昨年・来年



左手をグーにして、右手の人差し指をあてます。



来年

その後、いったん右手の肘をまげて前に倒すと、来年、



昨年

右手を後ろに倒すと、昨年となります。